

Newアクション応援事業採択団体一覧

令和8年4月1日現在

No.	団体名	支援年度	学習・活動名	主な内容
1	朝日グラウンド ワーク研究会	平成23～28年	社会教育・まちづくり推進・スポーツ振興・環境保全・子どもの健全育成などの活動を行う団体の運営や支援などを行う特定非営利活動。	子どもたちの地域を思う心を育てるための環境教育推進事業等の企画立案など、今後はNPO法人を目指す。具体的活動は、1月に紙ふうせん祭りを行う。
			神風船まつりを通じてのNPO法人設立に向けた活動	地域の活性化を目的に「神風船まつり」を企画・開催し、冬のまつりとして定着させる。地域の企業に協賛を依頼し、参加者や出店者を増やしていく。 他の団体と交流を持ち、NPO法人設立に向けた視察や研修を行う。
2	つちやこい旅 会議	平成23年	朝日町お弁当の夜明け	町の食材を生かした弁当をつくり、町のPRと生産者の活性化を図る。
3	空気神社応援団	平成23～24年	空気神社応援団	空気神社のお土産をつくり、PRと関連事業者の活性化を図る。
			空気神社3つ目のお土産づくりコンペティション	空気神社のお土産をみんなで考えるコンペティション。町民全員が参加できる内容で、広くアイデアを募集する。
4	MORES研究会	平成24～25年	循環型社会構築勉強会	地域密着型の循環型社会システム構築を通じた、持続可能な地域振興を行う。(朝日町産のカレー、ラーメン、ケーキ等の商品開発。地域振興用ホームページの開発、運用等)
				地域密着型の循環型社会システム構築を通じた、持続可能な地域振興を行う。(町のPRを行うことにより、町内産業振興に貢献する) 朝日町さんの食材を活用した健康食品を開発しながら、アンテナショップや物産市、インターネット等でPR。
5	サークル ひまわり	平成24年	地域の課題解決のための学習会の開催や継続性のある誰もが気楽に立ち寄れる場所の提供。	一人暮らしや高齢化が進む中、高齢者の誰でもが気楽に立ち寄れ、語らい、楽しみ、学習、憩ができる場所の提供を行う。
6	糸吉 (いときち)	平成24年	朝日町さだってめんこい雑貨みやげ、あつたていいべー	女性だからできる、朝日町の宝を活かした雑貨みやげ(あずま袋)の開発研究
7	朝日連峰 ジオパーク研究会	平成24年	磐梯朝日国立公園とジオパーク登録のための研究	国立公園朝日連峰朝日地区の価値や魅力を広く町民に知ってもらうための研究や、具体的な活動を行う。またユネスコが支援しているジオパーク(地球活動の遺産を主な見所とする自然の中の公園)として、朝日町の大地(朝日山地と最上川一帯)が認定されることを目指し、調査・研究・啓発活動等を行う。

8	ボランティアの会	平成24～29年	東日本大震災被災地復興支援(宮城県七ヶ浜町)と町内高齢者世帯等への支援活動(除雪等)	七ヶ浜町での復興支援と交流、町内では雪片付け等のボランティア、朝日町ボランティアセンター設立に向けた検討。
			東日本大震災被災地復興支援(宮城県七ヶ浜町)と町内小学校除雪、ふれあい荘草刈り等ボランティア	七ヶ浜町での農地復活の支援活動を通しての交流促進、町内では小学校の除雪、ふれあい荘の草刈り、福島県被災者親子の心のケア手伝い等のボランティア活動。朝日町ボランティアセンター設立に向けた検討。
			七ヶ浜町復興支援と町内での除雪や草刈り等ボランティア活動をととした人材の育成	七ヶ浜町での農地復興の支援活動を通して交流を促進する人材の確保。小中学校の通学路の除雪、高齢者施設の草刈り、福島県被災者親子の心のケア手伝いや新たな生活支援整備事業等への関わりを模索しながら、ボランティアに関わる人材のレベルアップや災害が発生した際の適応力工場にむけた研修による人材の育成につなげていく。
			ボランティア活動を通じた人材の育成	各地域における社会貢献活動に積極的に関わり、災害に備えたボランティア活動に適應できる人材を育成する。6月から2月までの間、町内及び活動先進地において、生活支援整備事業と災害ボランティアセンター協力員研修を行う。
9	りんごチャンネル	平成25～26年	移住者による、朝日町へ移住希望者へ向けた情報提供などの活動	実際に朝日町へ移住し生活している移住者ならではの目線で、これから町への移住を考えている人たちが本当に知りたいと思う情報をきめ細かく提供したり、町の魅力を伝える活動をするグループを立ち上げる。まずは、行政が発信する情報(町HP)とは別に、情報サイトの開設を今年度の活動とする。(来年度以降は、「田舎暮らし体験ツアー」や「バーチャルりんごもぎ取り」などの企画を行いながら、町民と移住者の交流の架け橋となるような活動をしていきたい。
10	朝日町有志会	平成26～29年	朝日町特産のりんごの木を利用した新しい特産品の開発	耕作放棄、倒木、改植等により町内の不要になったりんごの木が多くなり、処理に困っている農家が多い。再利用、利活用の研究として薪やスモークチップを作る。高齢者でも簡単に処理できることから、高齢者の一つの仕事として活動できるような仕組みづくりを目指す。さらに、チップ等による研究は、既存の事業所を参考に取り組んでいく。
			里山の再生をはじめ朝日町が育んできた農業や林業に活力を加える人材の発掘	耕作放棄、倒木、改植等により町内の不要になったりんごの木による町内産りんご炭の製作、販売による人材の育成。処理に困っている農家が多い。また、のんぼかの森等を核とする里山の森林再生活動をととした人材の育成に取り組んでいく。
			朝日町の宝「里・農・林・りんご」を暮らしにつなぐ人づくり	町内外の色々な技や力を用いて、朝日町における里山再生活動や農林資源の有効活用による潤いある生活を提案、実践する人材を育成する。年間を通じて、のんぼかの森を中心に町内一円において、剪定木等を活用した炭焼きそして薪の製造販売を行う。また、のんぼかの森の再生事業に取り組む。
11	ひまわりサロン 三休	平成27年	子どもや高齢者の居場所づくり	平成24年に三休の活動をスタート。これまでの活動の中で見えてきた課題等を踏まえ、活動を拡充していく。読書コーナー、カラオケ、ドリンクコーナーを整備し、異年齢の交流の場の充実を図る。交通手段が無く参加出来ない方への支援として巡回タクシーの運行を試行する。また、会員の活動のレベルアップに向けた施設研修などを実施する。

12	霹靂祭 実行委員会	平成27～30年	音楽フェスティバルの開催	自然豊かな大沼地区で音楽フェスティバルを開催し、県内外から集客を図りながら、町の特産品の販売や町の魅力を紹介し、一人でも多くの朝日町ファンを増やしていく。
			音楽フェスティバルをととした地域の関わる人材の発掘	自然豊かな大沼地区で音楽フェスティバルを開催し、県内外から集客を図りながら、町の特産品の販売や町の魅力を紹介し、一人でも多くの朝日町ファンを増やしていく。また、地域の行事や祭事に積極的に参加し、地域を盛り上げる人材の育成に取り組む。
				郷土を愛し、地域の行事や催事にに関わりながら、若者目線による企画立案などを積極的に行い、地域を盛り上げる人材を確保したい。 大沼浮島まつりに実行委員及びボランティアを中心に、野外音楽イベントを企画開催する。
13	星の会	平成27年～ 令和2年	民話で町おこし	朝日町の民話や昔の暮らしをととした交流を図りながら情報発信を行ない、交流人口の拡大に繋げる。
				朝日町の民話や暮らしをととした交流を図りながら情報発信を行い、交流人口の拡大に繋げていく。また、町内の観光資源等との連携を図りながら観光の振興に携わる人材を育成していく。
				民話をととした町おこしにより観光の振興に携わる人材を確保したい。 明治時代の古民家「宿の館」を会場に、昔話と抹茶を楽しむ古民家カフェや古民家ライブ等の企画開催をする。
14	末吉良ボーイズ	令和2年～	あさひ遊び場づくりプロジェクト	手作りの遊び場づくりを通し、地域の人々の交流の場を創出する。 地域の大人(大工さんなど)を講師として、スケートボード用バンクづくりやワークショップを開催していく。
				整備した遊び場を拠点とし、スケートボード用バンクの貸出などを継続して行う。 おさがりフリーマーケット・マルシェの開催企画や、コロナ禍でも楽しめる遊びの提供を行っていく。
15	木工復興プロジェクト	令和2年	木工復興プロジェクト	町内の果樹の伐採木や県産木材を有効活用し、対外的にPRできる木工品を創出することで町の活性化に寄与する。 初年度は簡易組み立てトイレの製品化と木工品三点の試作し、将来的には道の駅での商品やふるさと納税返礼品の開発とそれに関わる人材確保を目指す。
16	のぼり花火大会 実行委員会	令和3年～	のぼり花火大会 in 朝日町	イベントを通じて、町民に活力を与え、町内全体に新しいチャレンジをしたいと思える機運を高める。また、町民が新しいアイデアを気軽に実現できる新たな場として成長を目指す。
17	竜馬が学校に やってきた！ 実行委員会	令和4年～	ヴァイオリニスト竜馬学校公演「竜馬が学校にやってきた！」	子ども達にプロの音楽家による良質な生演奏を届けるとともに、講演会を通して子ども達が将来の夢や未来の展望を考えるきっかけを作る。
18	YUKARI	令和5年～	女性の居場所づくり	移住者を軸に、現役世代の女性が自分らしく輝いていられる居場所づくりを行う。他団体が管理している町内施設や民間施設を活用しながら、多世代間の交流活動を通して子どもの将来を共に考え、支えあっていく。
19	わらだやしき そば栽培体験 教室	令和6年～	そば栽培体験を通し、町に関わろうとする人材の発掘・育成を行う	立木地区の藁田屋敷地内にある遊休農地を活用し、そばの栽培を体験することにより、長期的な豊かな自然など地区の魅力に触れてもらうことができる。また、地元の方々と協力して作業を行い、参加者との交流が生まれることで、町と関わりたいと思う気持ちの醸成を図る。